

深井戸を活用した訓練を実施！

19日（日曜日）、区立大宮前公園（宮前3-15-10）に、新たに設置された深井戸を活用した防災訓練が実施されました。この深井戸（震災時多機能型深層無限水利）は、東京消防庁が設置したもので、震災時の消火活動に消防隊が活用するものですが、火災が起きていない場合には、防災訓練や震災等による断水時の生活用水としても活用が期待されています。

この訓練は、東京消防庁が大宮前公園に、新たに深井戸を設置したことを受け、荻窪消防署が実施したもので、近隣町会・自治会、防災会のメンバーなど100名ほどが参加しました。

東京消防庁では、震災時に同時多発する恐れのある火災に対応するため、防火水槽等、震災で途絶しない水利の整備を進めています。この深井戸（正式名称：震災時多機能型深層無限水利）もその1つで、地震時に枯渇する恐れのない地下約200m付近に滞留している水をポンプ設備で汲み上げ、毎分2m³の給水ができるもので、区内では杉並消防署敷地に設置されたものに次いで2基目となります。



19日午前10時、まず杉並消防署の署員から、深井戸設備の説明が行われました。そして、その深井戸から汲み上げた水を参加者が協力しバケツリレー。30mほどの距離にある水槽へ水を運び入れました。さらに、水槽に溜めた水を使い、D級ポンプによる初期消火訓練が行われました。

現在、東京消防庁と区で、この深井戸の活用に関する協議を行っており、消防署が消火用水として使用しない場合には、訓練時の利用とともに、震災時の区民の生活用水として確保していく予定です。参加者の一人は、「万が一に備え、このような設備ができたことで地域の防災力が高まり、とても安心しました。」と話していました。

【報道機関 問い合わせ先】

危機管理室防災課：03-3312-2111（代表）